



▲保護者ドクダミ採りの日。美味しい韓国弁当に疲れも消えた。自然の中で食べるとまた一段とうまい!! H 25.6.18



▲韓国出身の菅谷鐘来さん(左から2番目)に手解きを受け、厨房職員の手によって韓国弁当が作られた。

# 特集 自然・命・平和

은화학교

교장선생님이하은화학교여러분께

여름의 햇살이 따갑게 느껴지는 계절이 되었습니다. 은화학교여러분께서는 어떻게 지내는지요. 올해로 21년이 되었습니다.

6월 16일은 자매결연을 맺은 년로 귀중한 기념일로서 북총육성원에서는 이벤트를 기획하고 있습니다. 올해에도 자매우호기념주간(6/10-6/20)을 마련하여 은화학교의 여러분들을 생각하고 며칠을 일주일로 주안으로 하였습니다. 이 기간 중은 아리랑, 이별을 원대에 들을 수 있도록 하였습니다. 한국스타의 사진을 전시하는 등 한국무드에 멋이 있습니다. [한국에 갔다 온 적이 있으] 하 며 아리랑을 부르는데 이용자도 있고 하였습니다. 점심식사는 한국음식을 준비하여 불고기, 돼지고기볶음, 나물, 드라지, 호도만두 등 모두에 튀김, 맛있어요 하며 만족해 하였습니다. 6월 16일에는 21년 전 전주 은화학교를 방문했을 때의 비디오를 보며 친근감을 생각하는 한 시간이 되었습니다.

이런, 나라가 다른 자매가 있다는 것은 행복하다고 생각합니다. 앞으로도 자매를 생각하며 이정을 귀중하게 키워가며 정을 나누어가며 지내기를 바라겠습니다.

나시 여러분들과 만날 수 있는 날을 손꼽아 기다리며 여러분의 건강과 화약을 기대하며 오늘을 이만 살려겠습니다.

1913년 7월 1일

일본 북총육성원 원장 다케이도 시로  
한국은화학교가매제휴위원회의 이시마시 코모미  
북총육성원 직원 이용자 일동



発行日 2013. 7. 22  
第 223 号  
(第 1 回発行)  
1974年 4月 1日  
発行所 北総育成園  
千葉県香取郡東庄町  
笹川い5852  
☎ 0478-86-3003  
FAX 0478-86-3295

北総育成園のホームページが  
新しくなりました!  
施設の概要や理念、利用者の様子、  
園長からのお知らせ等、盛りだくさん!  
ぜひアクセスしてみてください。  
ホームページアドレス  
<http://www.hokuso-ikuseien.org/>  
Eメールアドレス  
[hokusoikuseien@e-sazankakai.or.jp](mailto:hokusoikuseien@e-sazankakai.or.jp)

## 姉妹提携を結び21年

### 改めて 姉妹の絆を思う

大韓民国全州市恩花学校  
田元吉校長先生

ならびに恩花学校の皆様

拝啓

初夏の日差しが眩しい季節となりました。恩花学校の皆さまはいかがお過ごしでしょうか。貴学園と姉妹提携を結び、今年で21年目となりました。6/16は姉妹提携を結んだ大切な記念日です。今年度も姉妹友好記念週間(6/10~6/20)を設け、韓国の方々を思う期間として取り組みました。期間中は館内に韓国の曲・アヒランとイビヨルを流したり、韓流スターや韓国の景色のポスターを飾ったりと韓国ムード一色となりました。利用者の方々も「カンコク良かったことあるんだよ!」と話したり、アヒランを口ずさんだりと一

人ひとりが韓国を思っている事が感じられました。韓国弁当は皆さんが毎年とても楽しみにしています。今年度のメニューはブルコギや豚キムチ、トラジの味噌和え、エゴマの葉の醤油漬け、ほうれん草とえのきのナムル、オイキムチ、クルミ饅頭など韓国ならではの料理を楽しむことができました。利用者の方々も「からい!」「おいしい!」と大満足の様子でした。また、6/16の姉妹友好記念日には21年前に利用者・職員皆で貴学園へ伺った際のビデオを鑑賞する機会を作り、昔を懐かしみながら、姉妹・仲間を思い、改めて貴学園との絆を感じる時間となりました。

このような国境を越えた楽しく豊かな時間がある事は北総育成園にとつても幸せなことです。これからも姉妹のことを想い、国境を越えた貴学園との絆を大切にしていきたいと思えます。また皆様とお会いできる日を心待ちにしながら、皆様のご健康とご活躍をお祈りいたしております。 敬具

平成25年7月1日  
日本 北総育成園 園長 武井敏朗  
韓国恩花学校姉妹提携委員会 石橋琴美  
北総育成園 職員 利用者 一同

村議会だより 109

第41回北総の里村議会選挙

5月の北総行事と言えば北総の里村議会選挙。昨年度の第40期を経て、今年度は第41期を迎える事となりました。

4月、新担任での居室運営開始。G・W前になる頃にはクラスの仲間から今期の選挙を意識する声が聞かれはじめました。公示までにはまだ日がありますが、各陣営(各居室)とも今期は誰を擁立しようか?水面下でのやりとりが始まりました。

迎えた5月8日の公示日と同時に多くの立候補者が出揃いました。

村長には現職の福田さんをはじめ4名が立候補。村議員には13名が立候補。一週間にわたる熾烈な選挙戦の火蓋が切って落とされました。毎年そうですが、特に掃除の場面では候補者が我先にと雑巾を持ち、床拭きを始めます。必至のアピールです。また各担任が心こめて描いた手描きのポスターが館内中に貼られました。

迎えた投票日。立合演説会では「清き一票お願いします!」と村民に最後の訴え。今年度の有権者数は180名。一人ひとりじっくり(?)考えての投票でした。結果、第41期村長に当選したのは77票を獲得した大河原さん。ここ近年、村長戦にこだわり続け、初当選。当選後の万歳では今まで見たことのないような満面のほほ笑みでした。

大河原新村長を支える議員戦ですが、こちらは本当に最後の一票までわからない大混戦。結果、田久保さん・石毛さん・堀川さん・春日さん・山本泰三さん・池田さん・花沢さんが当選。現職や返り咲き議員などバランスのよい実力者内閣が誕生しました。22票を獲得しトップ当選を果たした田久保さんは実に26年振りの立候補でした。過去5回議員経験はあるものの、四半世紀にわたり村議会から遠ざかっていた。今期は自ら立候補。立候補に至った心の内は何だったのか?しかし北総の里村議会のすごいところは園長がこだわり継続してきた事で、一人ひとりの利用者の心の変化が形となって現れること。そしてこの村議会活動は最高の動機づけ。この人たちを大きく変える働きをします。地味にコツコツ頑張り、農耕班一筋の働き者の田久保さん。古き良き村議会時代を知る一人として大河原新村長を支えていってほしいと思います。(猪田)

新星現る!!



第41期北総の里村長は 大河原一男さん

▲第41期北総の里 村長・村議員ここに誕生。向かって右から村長の大河原さん。村議員の田久保さん・石毛さん・堀川さん・春日さん・山本さん・池田さん・花沢さん。

開票結果

【村長】		年齢	村 長 当選回数	村 議 員 当選回数
当 (新) 77票	大河原一男	56	0	4
次 (元) 45票	菅谷 行男	41	5	9
(前) 33票	福田 克三	63	4	5
(新) 25票	渡辺 庸一	54	0	8
【村議員】				
当 (元) 22票	田久保 茂	56	0	5
当 (元) 21票	石毛 洋平	33	0	2
当 (前) 20票	堀川 明美	41	2	14
当 (元) 19票	春日 孝	55	5	14
当 (前) 16票	山本 泰三	71	1	7
当 (前) 13票	池田 美奈	39	0	7
当 (前) 11票	花澤 利夫	33	0	1
次 (元) 11票	安部百合子	63	0	2
(元) 10票	日森 直	43	0	2
(元) 10票	勝又恵久美	55	1	13
(前) 10票	石井 武明	41	0	6
(元) 9票	猪瀬美佐子	37	0	1
(元) 8票	堀越 正明	56	0	12

沖縄を訪ねるにあたり、忘れてはいけない事は先の大戦における沖縄の現実をしっかりと知る事でした。そもそも「なずな合宿」は原爆で兄を

6月21日から3泊4日で沖縄県を訪ね、22日、23日に開催された「なずな沖縄障害者教育福祉合宿研究会」に参加させて頂きました。この研究会は今年で21回を数える歴史ある研究会。源流は長崎の近藤原理先生が主宰する「なずな障害者教育福祉合宿研究会」であり、原理先生の平和や福祉に対する理念に深く共感した同志の皆さんが、その思いをそれぞれので広めていこうと日本各地で「なずな合宿」を開催しています。沖縄県では「蒼生の会」の砂川先生が中心となってこの研究会を開催されています。北総の武井園長と砂川先生とはなずな合宿を通しての古い友人であり、この度の研究会に参加する機会を頂きました。北総からは武井園長、絵鳩、保科、篠塚が園を代表して参加しました。

太田川のほとり 119

なずな沖縄障害者教育福祉合宿研究会に参加して

亡くされた原理先生の平和への願い「平和なくして福祉なし」が根底にあります。沖縄での「なずな合宿」でも切実な平和への願いが会を続ける原動力になっていると思います。沖縄に到着した21日、翌日の研究会に先立ち沖縄県南部にある糸満市に向かいました。糸満市は沖縄戦において熾烈な地上戦が繰り広げられた地域。平和の礎やひめゆりの塔、沖縄県平和祈念資料館等があり、沖縄戦で尊い命を失った方々の魂が眠る地でもあります。まず平和の礎や平和祈念資料館がある平和祈念公園に向かいました。当日は23日の「慰霊の日」に向けての準備が進められていました。23日は日本軍の組織的戦闘が終結した節目の日。沖縄県では「慰霊の日」として休日と定め、沖縄戦で命を落とした20万人以上の戦没者の冥福と世界の恒久平和を願う日としています。平和の礎は沖縄戦で命を落とされた方、一般人、軍人、そして国籍の隔てなく全ての方のお名前が刻銘されています。物を言わぬ石からは怒りや憎しみを通り越した祈りのようなものを感じました。お一人お一人の名前を見ていると「二度とこんな悲惨な事は繰り返さないで」という声が聞こえてくる



▲沖縄慰霊の日は6月23日。私たちは平和の礎に皆が折った千羽鶴を6月21日に手向けることができました。H 25.6.21

ようでした。平和祈念資料館では北総の仲間が心を込めて折ってくれた千羽鶴を納めました。その後展示室を見学。年表や写真パネル、当時の記録映像などを見て胸が潰されそうでした。個人的にはこの資料館を訪れたのは2回目でしたが、初めて見た時と同じ衝撃でした。「何も言えない」が正直な感想です。展示室の出口には真っ青な海が広がり、68年前、目の前に広がる同じ海である惨い戦いがあったと思うと余計に切ない気持ちになりました。最後にひめゆりの塔を訪ね塚の跡地に花を手向けました。翌日からは研究会に参加の為南城市へ。各分野から利用者支援の在り方をご自身の経験を交え実践発表がありました。ビデオを通して原理先生の講演も聞く事ができました。北

総も発表の場を頂きました。武井園長から入所施設ならではの生活を丸ごととらえた支援の在り方、働くことと生きること、文化活動の大切さ等をユーモア溢れる語り口で発表。また、北総の平和学習の実践紹介では紙芝居の発表をさせて頂きました。題材は保護者の井上さんがご自身の戦争体験を綴って下さった原稿を基にして作った「しげおちゃんといざわくん」という北総オリジナルの紙芝居。会場の皆さん真剣に見入って下さり、感想でも北総の平和学習の取り組みを評価して下さいる意見もあり有り難かったです。研究会を終え、夜の懇親会では蒼生の会の職員の皆様とおいしい泡盛を頂きながら、楽しく歓談させて頂きました。職員一人の気付きを組織全体の意識へとつなげて行く皆さんの姿勢に、人間を相手にするこの仕事における本当の謙虚さを教えて頂いたように思います。お若い職員が多い中、職員一人ひとりが高い意識と熱い情熱をお持ちになられている事がわかりました。また、三線の演奏と沖縄民謡を生で聴けたことも貴重な経験でした。親子の強い絆を歌う曲で昨日見た戦争の光景と重ねると切なくなりました。研究会の後は砂川先生に普天間



▲夜の懇親会。三線の演奏と沖縄民謡を生で聴くことができました。三線を通して平和の尊さを学ぶ。H 25.6.22

墓地が一望できる嘉数高台に案内して頂きました。あんなに住宅地に接近して墓地があることを目の当たりにして本当に驚きました。この研修では改めて沖縄の皆さんの生活に根ざした平和への願いを知り、私達にとっても同じ日本人として忘れてはならない大切な気持ちであり、その願いは戦後70年近く経つ今、そしてこれからも絶対に風化させてはならないと強く思いました。この研修で学んだ事を千葉の仲間にも伝え、平和への願いを行動に繋げていき、これからも北総から平和の大切さを発信していこうと思えます。沖縄の皆様、温かく迎えて下さり本当にありがとうございました。(絵鳩)

### 自然・笑顔・ドクダミ



▲船橋市明るい社会づくり推進委員会の皆さん。生憎の雨模様の中を笑顔でドクダミ採り。ただただ感謝するばかり。H25.6.13

北総でドクダミを採り続け20数年が経ちます。20年以上の歳月の中で利用者も高齢となり、また山にも人の手が入らなくなり、荒れ放題。毎年ドクダミの群生地探しに頭を悩ませながら、たくさんの方のご助力を頂き、何とか乗り越えてきました。今年もドクダミ採りやらつきよの加工にたくさんの方のボランティアと保護者の皆様にご協力頂きました。6月13日には船橋市明るい社会づくり推進委員会の皆様23名、18日には保護者の皆様31名が朝早くからボランティアに参加して下さいました。皆様に助けて頂き、今年も無事に取り終えることができました。ありがとうございます。ボランティアの皆様を代表して3名の方に感想を頂きましたので掲載いたします。

#### ①ドクダミ採りに参加して

明るい社会づくり推進委員会

山崎 宮子

6月13日、北総育成園に船橋市明るい社会づくりのボランティアに私

は20年前から楽しみに続けて毎年参加しています。なぜかと言うと利用者の数名の方と小学生の時から知り合いましたので顔を見ると嬉しくなります。私はどくだみ刈りの野外の作業班に入れて頂き、園生は、どくだみを採ったのを束にして車に乗せる仕事です。当日は小雨が降り、暑い日でしたので最後までやりとげられるかが心配でした。先生は一人一人の人格を尊重して丁寧にお話しし、先生が園生を大切に、また助け合って作業している姿を見て作業は大変でしたが心の中は嬉しさと充実感でいっぱいになりました。時折うぐいすの鳴き声が聞こえ、そよ風が吹き私の心は心地よくなりました。帰りのバスの中で疲れをとらせてもらいとてもよかったです。ボランティアに行く度に、園生達の笑顔を見る事と先生方の対応の素晴らしさに触れ私も笑顔で優しい人になりたいと思えました。ありがとうございます。

#### ②私と北総育成園

明るい社会づくり推進委員会

小山田征子

私が、船橋市明るい社会づくりから、ボランティアで北総育成園に行かせていただくようになって、30余年になります。

いつの間にか園生の方々とも顔見知りになり、今では笑顔で話し掛け



▲高齢となった父母が山に分け入ってドクダミ採りに精を出して下さった。我が子が想う気持ちをその背中からたたくことを学んだ。H25.6.18

て下さるようになりました。一緒に作業をさせて頂く中で、いつも感じますのは、園生の方々の個性に合わせて愛情溢れる接し方でご指導されている、先生方の姿勢です。私もふれあいの中から、いろいろな事を学ばせて頂きました。心から感謝させて頂きます。今回はラッキョウ漬の下ごしらえをさせて頂き園生の方々と楽しく一日を過ごしました。今まで、手芸、陶芸、紙工芸、木工、シクラメンの手入れ等々いろいろな事を体験させて頂いた事は、私の宝です。秋のボランティアで、また会える日が楽しみです。

#### ③どくだみ採り感想

大島 孝夫 (保護者)

私は昔薬草の産地でした薬田台という所に住んでおりまして自分の趣味としても自宅のベランダで20種類

ドクダミの心  
ドクダミのドは泥にまみれ努力するド。ドクダミのクは苦勞して苦しい思いをするク。ドクダミのダは団結する大切さや感謝の心を知るダ。ドクダミのミは、実りある仕事となり、仕事が身に付くミ。今日も色んな思いの詰まったドクダミを一本一本大切に、束ねて、干して、製品化していく。  
(杉本)



位のハーブを育てているのでドクダミと聞いて興味もあり今日参加させて頂きました。それが甘かったのです。中腰の姿勢が多くて結構な重労働でなかなか思うように刈れませんでした。たまたま隣にいた林産班の杉本さんの刈った箱を見たらさすが職人芸という感じの美しさでした。お昼休みになり園長先生がどこかでつかまえたガマガエルを持って写真に収まってきました。そのお姿がサマになってました。午後の作業になり少し慣れてきたかな？普段自分の仕事場では私が一番年寄りなのですが今日の保護者の方々を見ると今年でカンレキの私が一番ヤングの様でした。これでへこたれちゃあいいませんよね。ドクダミ刈りは娘がくれた試練だと思っ来年も頑張ります。さてと、今夜のビールは、うまいぞ！

## 「働くこと生きること」の軌跡を辿る

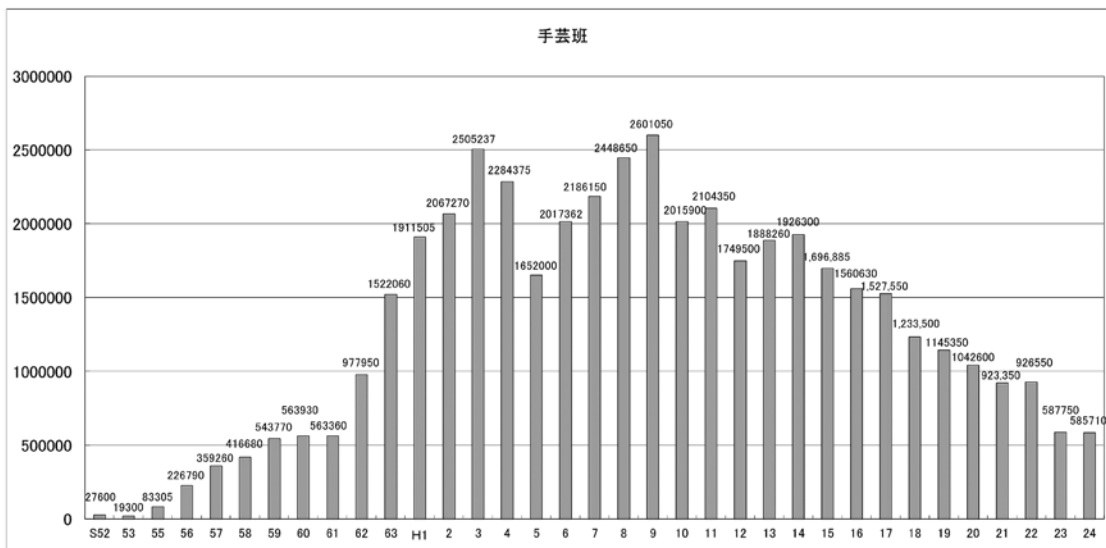
40年の歳月が流れた北総。「働くこと生きること」が北総の精神。この連載では、一作業班ずつ40年を振り返ってみたいと思う。第4回目は手芸介護班。

## 4. 手芸介護班

### S52～H24年

H	利用者	13 名
25	職員	6 名
内	パート	1 名
訳	利用者平均年齢	52.2 歳

初年度からの売り上げグラフ



▲25(13)4月1日から新棟1階に移った手芸介護班。

私が北総にお世話になり、手芸班担当を言われたのは今から15年前、平成10年のこと。それ以前の苦労話を白樫さんから時々聞くことがありました。白樫さんの北総入職は昭和60年。今から約30年前のこと。私よりさらに15年を遡ります。北総育成園の開園は昭和49年。その当初の源流の頃の手芸班のよちよち歩きはどんな感じであったのでしょうか。売り上げグラフから読み取れるように、当初は売れるような製品が生産される仕組みが不十分。試行錯誤の時代であったことが読み取れます。が、この昭和49年から手芸班一筋の人たちが40年間手芸班に籍を置いて、手芸班がその後、260万円を稼ぐ時代を担ったのです。売り上げを伸ばそうと白樫さんは夜なべをしました。すると、栄子さん、正子さん、孝子さんが手芸室に顔を出し、仕事を手伝ってくれたのです。そんな話を白樫さんから聞きました。その人たちは今、北総にはいません…。

昭和63年には常設店「でんでん虫」「はんとく」ができ、販売場面が増え、売り上げも大幅に伸びていきました。平成3年には工業用マシンが入りました。正子さん、淳子さんがその担い手。生産数も増えて売り上げも伸びました。平成に入ると「販売に出せば売れる」というほど、手芸班の製品はたくさんのお客さんに喜ばれ、売り上げも200万円を超え、平成9年には260万円とピークとなりました。しかし、平成10年からは徐々に売り上げが落ちてきています。バブルが弾けた余波が施設にも及んだのです。市場は安いものが出回るようになり、手芸製品が「高い」と売れにくくなってきました。また、併せて利用者の高齢化がだんだんと顕著になってきた事も売り上げが下がった原因の一つ。移動やトイレ介助、水分補給…と利用者の年齢と共に介助や介護する場面が増えてきました。そして現在、「手芸班」から「手芸介護班」と名前も変わり、ますます介護度が高まった作業班となりました。利用者は思うように動かない体となっても、長年続けてきた自分の仕事に毎日一生懸命に向かっている。そんな姿に寄り添いながら、私達職員も共に働いていきたいと、今、改めて思います。

(手芸介護班チーフ 保科)



▲今は昔、2011年度手芸班。この年に新棟建設のため、手芸作業場が解体された。

**園長コメント**  
昭和49年開園した北総。当初数名であった利用者も3カ月程の間に50名の定員に近づく。何をして暮らしを立てるか、初代園長、天羽博夫と仲間が思案した。緑の大地、農村地帯のど真ん中に出来上がった北総である。男は百姓。女は洗濯と縫い物。一先ずそこから出発することに異論無し。その当時は今と違って、戦前の古い時代と戦後の新しい時代が錯綜していて、未だ、体で仕事を覚える時代。厳しく躰されて、この人たちでも百姓仕事の出来る人、手芸仕事の出来る人が当たり前に居た(みんな仕事の出来る雰囲気があった。実際にやってみたら大したことはない)。当初から手芸班に籍を置いた諏訪栄子さん、正子さん、秋山孝子さん。その後、40年の手芸班を語る余白はここにはないのが残念。白樫さんの時代に260万円を稼ぐ出した。平成25年の手芸班は手芸介護班として稼働。昔の光は引継がれ健在である。(武井)

街道をゆく (121)

メンソールし沖繩!!

① 神の島「久高島」を歩く

保科 智子

る沖縄ならではの民家が並び、各家々の屋根や門にはシーサーが座り、風情のあるのかな霧囲気を感じながら歩きました。また、島にある植物や木も変わっていて、神の島だからこそ見られるのか?と思うような不思議な植物がありました。

港から歩く事約15分。島に伝わる秘祭「イザイホー」の舞台である久高殿、外間殿を見学。「イザイホー」は12年に一度行われ、久高島で生まれ育った30歳以上の既婚女性が神女(神職者)となる為の就任儀礼。久高殿、外間殿は思ったよりひっそりとした佇まいでシンブルな作り。日本のお祭とは違ったような奉り方をしている様子があり、違う国へ来たかのような気分にもなりました。個人的には沖繩は大好きな場所であり今回で5回目の訪問となりましたが、沖繩独自の信仰心や文化に触れてまた新たな魅力を知る事ができました。

6月21日、沖繩研修初日。朝9時半に那覇空港に到着。昨日まで台風が残っていたとの情報でしたが、全くそんな様子はなく台風一過の良い天気。那覇空港を出ると一気に汗が吹き出る程の暑さでした。まずはレンタカーで南城市へと向かいました。車内から見える景色は青い空と白い雲、緑のサトウキビ畑が広がり、見慣れない景色にワクワクした気分でした。那覇市内から南城市までは一時間ほどで到着。最初の目的地である久高島へ渡るため安座真港へ。島までは高速船で移動。透き通るような青色のきれいな海を渡って行きましたが、荒れていたこともあり、たくさん水しぶきを受けながらの移動でした。久高島は周囲8km程の小さな島ですが、琉球開闢の祖、アマミキヨがニライカナイ(神々が住む理想郷)から降り立ち最初に作ったとされる神聖な島。今でも数多くの神聖な祭事や習慣を受け継ぐ「神の島」と呼ばれ、歴代の琉球王国は久高島参詣を欠かさなかったそうです。15分程で久高島に到着し歩いて散策。石垣の塀があ



▲久高島で一番古いと言われている大里家(ウブラトゥ)にて。H 25.6.21

② 世界遺産「中城」を歩く

篠塚奈緒美

今回、沖繩平和学習研修に参加させて頂きました。沖繩へ行くのは初めてで、どんな研修になるかとても楽しみでした。沖繩に着くととにかく暑い!! こんな暑さも初めてでした。沖繩で感じたのは、空や海が真っ青で、木々の緑が映えており自然がとても綺麗でした。中でも印象に残っている見学場所は中城城跡です。城跡だからそれなりに大ききさだろう...と思っていました。が、実際に行ってみてその大きさに驚きました。

中城城跡は曾て貿易が行われていた屋宜の港から2km程離れた標高160mの丘陵地にあります。中城村の西北から北中城村の南側に伸びていく丘陵の東崖縁を天然の要害とし、300余もあるとされている沖繩の城(グスク)の中でも最も遺構がよく残っている事で知られています。城は連郭式の山城で、六つの郭で構成。城壁は、主に琉球石灰岩の切石で積まれており、自然の岩石と地形的条件を生かした美しい曲線で構成されています。その築城技術の高さは芸術的と言われ、歴史的に高い評価を受けており、2000年に「琉球王国のグスク及び関連遺構群」の一つとして世界遺産にも登録されています。中城城跡は、14世紀後半頃迄、先中城按司が数世代に渡り、西



▲世界遺産「中城城跡」に立つ。H 25.6.23

の郭、南の郭、一の郭、二の郭の主な部分を築き上げ、1440年に読谷の座喜味グスクから移ってきた護佐丸によって、北の郭、三の郭が増築され現在見られるグスクの形が完成したそうです。広大な敷地にある中城城跡はとても大きくてその存在感に圧倒されそうでした。石垣に立つと西に東シナ海、東に中城湾(太平洋)と石垣の上からの眺望も最高に綺麗で青い空に青い海、青々とした緑が映えて景色に見入ってしまいました。まさに世界遺産と言うだけあって、日本にいるのに日本ではないような場所中城。古琉球時代を今に伝えるその偉大さを感じました。城跡までの道のりは長く、坂道や石がゴロゴロとある道で登るまでは正直大変な思いをしましたが、一番上の石垣から見る景色は登ってみないと感ずる事の出来ない素晴らしいものでした。また機会があったらぜひ行ってみたいと思います。

### 한국에서 온 편지

## 韓国からの お礼状

昨年11月15日、韓国全羅北道教育庁主催による海外現場体験学習として、知的障害を持つ学生と保護者の方々、引率の教職員の方々総勢35名で北総を訪ねて下さいました。この訪問に至った経緯には北総と恩花学校との長年に渡る交流があります。北総が20年前に蒔いた小さな種が、今こうしてまた新たな芽に繋がっていることに感謝と誇りを持って、これからも韓国の皆さんとの友好を深めていけたらと思います。北総を訪問した皆様より感想を頂戴致しましたので、ご紹介します。

### 息子と3泊4日の日本旅／インウンオク

#### 아들과의 3박4일 일본 나들이

北総育成園を見学、夢に見た現実がそこにはあった。安心して息子を預ける所はないかといつも日頃思っていた。椎茸を育てている人、パンを作る人、和紙を作る人、ミシンでかばんを作る人、木工製品を作る人、陶芸製品など一生懸命に励む姿をいつまでも忘れません。日本を回って旅の合間におはようございます、こんにちは、ごちそうさまでしたと挨拶をしていた息子。言葉を口で出しているだけと思っても愛くるしい我が息子。我が子を置いて死ぬわけにはいかない何か始めなければと思う親心でした。

다행히도 이듬해 1월 15일 광주광역시에서 열린 '2013년 장애인 해외 현장 체험 학습'에 참가하여 한국을 방문하였습니다. 20년 전 심어준 작은 씨앗이, 이제 다시 싹을 틔우고 있습니다. 이번 방문을 통해 장애인 학생들과 보호자 분들, 그리고 교사님들 모두 한국을 돌아오셨는데, 그동안 우리가 만들어온 작은 세계에 대해 많은 이야기를 나누었습니다. 앞으로도 장애인 여러분들과 함께 더 나은 세상을 만들어 나가기 위해 노력하겠습니다.



### 愛する息子と日本の旅／イキヨヒ

#### 사랑스런 아들과 함께한 일본여행

이제는 제가 걱정 없이 한국에서 살 수 있게 되었습니다. 장애인 분들이 한국에서 살 수 있게 되었습니다. 장애인 분들이 한국에서 살 수 있게 되었습니다. 장애인 분들이 한국에서 살 수 있게 되었습니다. 장애인 분들이 한국에서 살 수 있게 되었습니다.

一番に知りたい、行って見たいと思っていた北総育成園を訪ねた。全州恩花学校と姉妹提携にあると聞き親しみを感じました。案内された広い敷地に各仕事場があってその人にあった仕事をしていました。社会福祉制度が充実している日本、障害者を持つ親として羨ましい国であります。先日ありがたい事に親友会の力もあって2015年障害者収容施設が完成する、良い知らせがありました。子供を手放す心苦しい反面、慰勞の一息をするところでもあります。

### 初めての海外旅行／アンヒョンスク 해외첫나들이

이제 제가 걱정 없이 한국에서 살 수 있게 되었습니다. 장애인 분들이 한국에서 살 수 있게 되었습니다. 장애인 분들이 한국에서 살 수 있게 되었습니다. 장애인 분들이 한국에서 살 수 있게 되었습니다.

この日は北総育成園を訪ねました。園長先生をはじめ利用者皆が温かく迎えてくれました。手作りのアンパンと袋をお土産にくださいました。芸座演奏や踊りを見させて頂きました。創立40周年になることや平均年齢が53歳になる事など北総育成園に対して色々知ることができました。

歓迎の気持ちで74歳になられる方の踊りを見て人生の半分を北総で暮らしたんだらうなと思うと不憫に思う気持ちもありましたが信じて任せる施設があることは当事者や保護者にとってありがたいことだと思います。我が国でも子供が大きくなって親がいなくなったとき安心して任せられる施設があればいいと思います。その道はきっと遠くないと信じています。これからも障害を持っている友達にこのような見聞を広げる機会が沢山あってほしいと願っております。40年間この施設をひっぱり続けて来られた園長先生に敬意を贈りたいと思います。

### 日本を訪ねて／ 소스넝츄를

#### 일본을 다녀와서

北総育成園を訪問、今回参加された親だれもが我が子を心配し、その先を不安に思うその答えが見つかったように思いました。40年間この人達の為に力を注いでくださった園長に敬意を贈りたいと思います。宗教団体や政府機関の施設はあるものの社会から見放され、あげく家に閉じこもるケースも珍しくないのが現状です。その中、私達もやれば出来ると、自信が湧いてきました。我が子の未来の為につくす限りです。

이제 제가 걱정 없이 한국에서 살 수 있게 되었습니다. 장애인 분들이 한국에서 살 수 있게 되었습니다. 장애인 분들이 한국에서 살 수 있게 되었습니다. 장애인 분들이 한국에서 살 수 있게 되었습니다.

## みんなの広場

## ① 大自然の中で

ドクダミ採りの応援に入る。ドクダミ採りは一年ぶり。昨年は、ドクダミの葉も知らなかった私だが、今では何の迷いもなく鎌で刈っていった。一年目の職員にも採り方を教える。利用者と一緒に作業をする。この大自然の中で、小さな小さな関係だが、いか大きな大きな関係になればいいな。この大自然にある大きな木のように、一人一人が個性のある大きな大木のような人になれますように。そして、木が集まって森になる様に、皆で大きな力を与え、優しく見守れる人になれますように。

## ② ハゼ作り

陶芸班に見学者の方と園長が来た際、班長の堀越さんはよりいっそう張りきりハゼ作りをした。園長が堀越さんの仕事ぶりとおハゼをほめてくださると嬉しそうにしながらもていねいに作っている姿があった。見学者の方と園長が帰られると堀越さんはわたしの

ところに来て「ぼく、えんちようせんせいにはめられちゃった」とニコニコしながら報告してくれた。その笑顔を見て、普段のハゼ作りの頑張りを感じた瞬間だった。

## ③ 新しい作業場に移って

(米川)

手芸班が新棟に引っ越してから約二週間。ドアを開ければ自動で付く電気。手をさしただせば出てくる水。みんな初めは慣れない様子でしたが少しずつ新しい作業場に慣れてきています。そんな中で電気のスイッチをおそうと探してみたり、水道の蛇口をひねる動作を試してみたりする、手芸班メンバー。前までの生活の様子を思い出し、少しさびしく感じることもあります。

## ④ ドクダミ採り利用者の様子

(児玉)

北総2年目の今年。ドクダミシーズンも2回目となります。昨年は北総に入って初めてのボランティアが来てのドクダミ採りでしたが、想像以上に大変でした。そんな中、利用者さん達は、ボランティアの人達が来るから良い所を見せなきゃという気持ちを持ちながら黙々とドクダミ採りを行っていました。今年も船橋市明るい

社会づくり推進委員会の方と保護者の皆様とボランティアを行って頂きました。



林産班の利用者さん達は、自分のできる事を精一杯やろうという姿勢を持ちながらドクダミ採りを行ってくれました。とても大変な中、弱音を吐く人は1人もいませんでした。そんな利用者さんの頑張っている姿を見ると、私もこの人達の為にはいい仕事をしなければという気持ちになります。

林産班の作業の中でもボランティアの方々とのドクダミ採りが私は一番大変だと思います。しかし、「このような大変な仕事を行う事こそ、利用者を大切にすることだ」と園長がおっしゃっていました。涼しい部屋でテレビを観るだけの生活では利用者のできることを奪っていることと同じであり、ドクダミ採りという大変な仕事を思い切り切つてこそ、人間としての立派な姿なのだという事を学ぶことができました。全員で一生懸命採ったたくさんさんのドクダミを無駄にしないように、全て売りさばけるように色々と工夫しながら売っていきたいと思います。

(加茂)

## 編集後記

後輩職員が増え、最近よく感じていることは後輩たちの成長ぶり。仕事もそうだが、先日行われた施設交流バレーボール大会では、後輩たちの活躍に、世代交代の時期を感じつつも自分は今も年だからと後輩たちの努力を見ずに若さを言い訳に手を抜いているのではないだろうかと考えてしまう時がある。仕事も含め、まだまだ負けないぞ！という気持ちをもって改めて初心に返り、自身自身を見直していかなくては…。

さて、今号の広報紙では、姉妹提携を結んでいる韓国恩花学校との交流や沖縄研修報告、毎年おなじみドクダミ採りや村議員選挙について掲載しています。広報紙を担当すると、自分が編集長でいいのだろうか？と毎回プレッシャーを感じていますが、他の編集長に負けないよう良いものを作り上げようと思いつきながら編集に携わっています。広報紙の編集長としての力はまだまだ足りず、園長や絵鳩課長にお力添えを頂き何とか編集を終える事ができ、皆さんのお手元に届けることができ、沢山の方のご協力を得て形にすることができました。ありがとうございました。今号も良い広報紙が出来たかと思えます。少しでも多くの方に読んで頂きますように。

(信田)